

給電機能の種類

	車載の給電装備			別売の外部給電器が必要※2
種類	<p>アクセサリコンセント</p> 	<p>非常時給電システム</p> 	<p>AC外部給電システム (ヴィークルパワーコネクター)</p>  <p>プリウス PHV 接続イメージ</p>	<p>DC外部給電システム</p>  <p>プリウス PHV V2H接続イメージ</p>
給電能力	AC100V・1500W	AC100V・1500W	AC100V・1500W	DC6000~9000W (別売りの外部給電器からAC100Vを給電)
クルマの状態	走行中および停車中※1(走行可能状態)	停車中(走行機能停止状態)	停車中(走行機能停止状態)	停車中(走行機能停止状態)
コンセント搭載位置	車内	車内	車外	車外
詳細	<p>●走行中(停車中含む)に車内において、AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源として使用可能。</p>	<p>●災害などによる非常時に電力が必要なとき、停車中(走行機能を停止した状態)に車内および車外において、AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源として使用可能。</p>	<p>●普通充電インレットにヴィークルパワーコネクターを接続することで、停車中(走行機能を停止した状態)に車外において、AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源として使用可能。</p> <p>●バッテリーのみで給電する[EV給電モード]と、バッテリーのみで給電し、バッテリー残量が減るとエンジンがかかり給電を継続する[HV給電モード]からモード選択が可能。</p> <p>●防水カバーを備えるため、コンセント部を防水可能。</p>	<p>●災害時などの非常時に電力が必要なとき、停車中(走行機能を停止した状態)に車外において、最大消費電力DC6000~9000W以下の大電力を供給可能。</p> <p>●DC(直流)電力をAC(交流)電力に変換する別売りの外部給電器が必要となる。</p> <p>●別売りの外部給電器はV2H(Vehicle to Home:クルマから家へ)、V2L(Vehicle to Load:クルマから電気製品へ)の2タイプがある。V2Hは建物の既存配線につなぎクルマと建物が双方向に送電できる「据置型」、V2Lでは持ち運びができ、クルマから電気製品へ単方向に給電する「可搬型」の外部給電器となる。</p>
電力の供給先	クルマから電気製品へ			<p>クルマから電気製品へ (V2L機器を使用してより大きな電力を供給)</p>
		クルマから住宅へ (クルマde給電を使用して一部の居室へ)		クルマから住宅へ (V2H機器を使用して建物全体へ)

※1 車外で電気製品を使用するときや、災害などにより非常時に電力が必要な場合などには、非常時給電システムの使用をおすすめします。

※2 外部給電器は一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC版またはV2L DC版)に準拠したものをご使用ください。外部給電器の詳細については、各機器の取り扱い説明書などをご確認いただくか、製造元へお問い合わせください。ガイドラインに準拠していない外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

給電機能の使い方

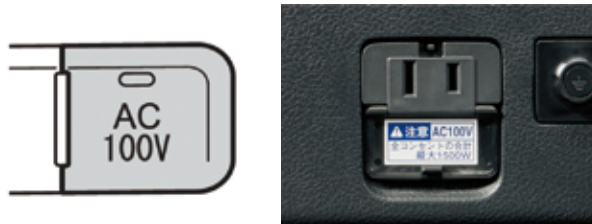
種類

使い方

車載の給電装備（別売の機器が不要）

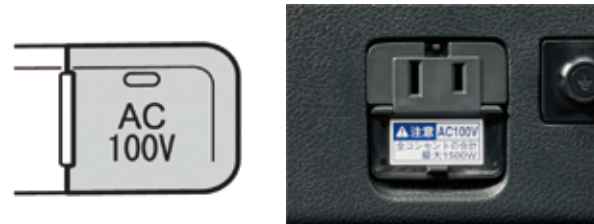
別売の外部給電器が必要

アクセサリコンセント (AC100V・1500W)



AC100Vスイッチ アクセサリコンセント

非常時給電システム



AC100Vスイッチ アクセサリコンセント

AC外部給電システム (ヴィークルパワーコネクタ)



ヴィークルパワーコネクタ 普通充電インレット

DC外部給電システム

プリウスPHV



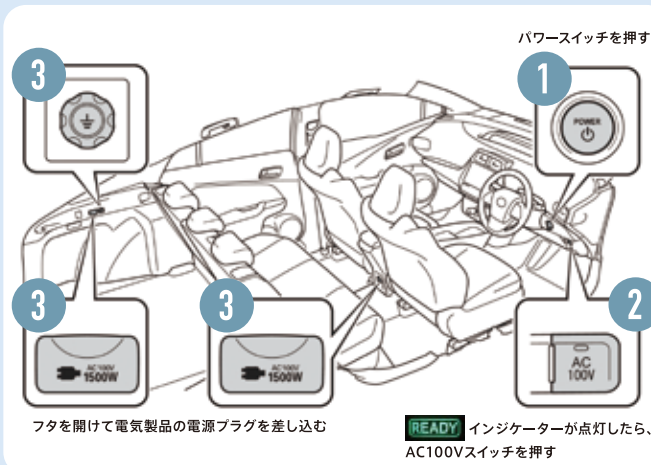
V2H接続イメージ

MIRAI



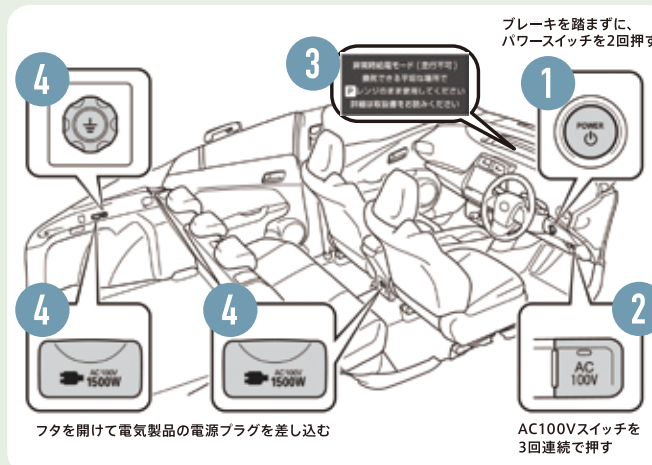
外部給電アウトレット
(ボンネット下コンパートメント内)

例 プリウスの場合 車種によって場所が異なりますが、同様のスイッチ及びコンセントが存在します。



- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキをしっかりと踏みながらパワースイッチを押してください。
- 2 READYインジケータが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押してください。作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。AC100Vスイッチを押すたびに、コンセントのON/OFFが切り替わります。
- 3 フタを開けて、電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。アース線のある電気製品を使用する時は、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。
※ラゲージルーム内のコンセントがない車種もあります。

例 プリウスの場合 車種によって場所が異なりますが、同様のスイッチ及びコンセントが存在します。



- 1 ブレーキを踏まずに、パワースイッチを2回押して、「イグニッションON」状態にします。ブレーキを踏んでいると非常時給電システムは使用できません。
- 2 READYインジケータが点灯していないことを確認し、AC100Vスイッチを3回連続で押してください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの説明が表示されたら起動完了となります。
- 4 フタを開けて、電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込んでください。アース線のある電気製品を使用する時は、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。
※ラゲージルーム内のコンセントがない車種もあります。

例 プリウスPHVの場合 車種によって操作手順が異なります。

- 1 ブレーキを踏まずに、パワースイッチを2回押して、「イグニッションON」状態にします。始動操作に関するアドバンス画面が表示された時は、ステアリングに装着されているメーター操作スイッチの **EV** を押して前の画面に戻します。
- 2 ステアリング右側のスイッチでディスプレイを操作し、「EV給電モード」「HV給電モード」のいずれかを選択します。**EV** を押して、ご希望の外部電源供給モードを選択し、決定ボタンを押す。
- 3 給電モードを決定し、「ヴィークルパワーコネクタ」を選択します。ディスプレイを確認画面で「OK」で決定ボタンを押し、決定ボタンを押したらディスプレイ上の設定が完了。
- 4 ヴィークルパワーコネクタのコンセント差込口に電気製品のコンセントを差し込んでください。
- 5 充電リッドを開け、普通充電インレットにヴィークルパワーコネクタを差し込みます。
- 6 ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを2回連続で押すと、充電インジケータが点滅から点灯に変わります。点灯に変わった後、電気製品の電源をONにしてください。

- 1 外部給電コネクタを急速充電インレットに押し込み、外部給電コネクタをロックする。
- 2 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを2回押して、ONモードにする。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイの画面で、メーター操作スイッチの **EV** を押して **EV給電モード** (車両カスタマイズ) を選択し、**EV** を押す。
- 4 メーター操作スイッチの **EV** を押して「外部電源供給」を選択し、**EV** を押す。
- 5 メーター操作スイッチの **EV** を押して「EV給電モード」を選択し、**EV** を押す。
- 6 **EV** を押す。
- 7 必要に応じてメーター操作スイッチの **EV** を押して「外部給電器」を選択し、**EV** を押す。
- 8 外部給電器で開始操作をする。
- 9 充電インジケータが点滅から点灯に変わった後、接続した電気製品の電源をONにする。

- 1 外部給電器の手順に従い、給電コネクタを外部給電アウトレット(ボンネット部)に押し込んでください。
外部給電コネクタを押し込むときに給電ケーブルがボデーに傷などつかないようにご注意ください。外部給電コネクタの形状や取り扱い方法などは、外部給電器のタイプにより異なります。外部給電器の取扱書に従って、作業を行ってください。
- 2 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを2回押してONモードにします。
メインディスプレイに「イグニッションON」と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、FCシステムが始動してしまい、DC外部給電システムが使用できません。
- 3 外部給電器の手順に従い、外部給電器の給電操作をしてください。特定の外部給電器によっては、パワースイッチがOFFになり、給電が停止する場合があります。そのときは、停止から2分以上あけてから、再度 **EV** から実施してください。
- 4 マルチインフォメーションディスプレイに表示される使用上の注意に関する画面を確認し、メーター操作スイッチの「OK」を押してください。

■詳しくは、給電マニュアル動画または各車種の取扱書および、外部給電器に付属の取扱説明書をご確認ください。 ■AC100V・1500W未満のアクセサリコンセント付車を除く。 ■工場出荷時の電源周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

安全にお使いいただく上での注意事項

お守りいただかないと思われぬ事故の原因となり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。詳しくは取扱書をご覧くださいか販売店におたずねください。

アクセサリコンセント／非常時給電システムの場合

【電源コード／配線】

■コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。 ■アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。

【使用する電気製品】

■使用する電気製品の取扱書の注意事項に従ってください。一般の電気製品の多くは自動車内や屋外での使用は想定されていないため、次のような問題が発生する可能性があります。 ●走行中の振動で故障する可能性 ●特に外気温が低いときや高いときでは、故障や作動不良になる可能性 ●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性 ■防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。 ■車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。 ■次のような電気製品は正しく作動しないおそれがあります。 ●起動時の電力が大きい電気製品 ●精密なデータ処理をする計測機器 ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

【使用する電気製品の消費電力】

■合計消費電力は1500W以下でご使用ください。1500Wを超えると保護機能が作動し、給電機能が停止します。 ■定格消費電力合計が1500W以下であっても、起動時等に大きな電力を必要とする電気製品があります。その場合は、保護機能が作動して、給電機能が停止します。 ■定格消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

【使用する電気製品の作動周波数】

■工場出荷時の電源周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

車外の電気製品と接続してご使用になる場合は次の項目にもご注意ください

【車両の安全確保】

■エンジンが作動することがあるため、次のことをお守りください。とくに、車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。 ●使用中は車両から離れないでください。 ●誤って手を入れないようにボンネットは閉めてください。 ●シフトはPポジションにして、パーキングブレーキを作動させてください。 ●地面が固く平らな場所に駐車し、できれば輪止めを設置してください。 ●必要に応じて、メカニカルキーでドアロックしてください。 ■落雷の可能性がある天候の時はコンセントを使用しないでください。使用中、雷に気づいたときには使用を停止してください。 ■一部地域では駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。

【電源コード／配線】

■コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。 ■車外に電源コードを引き出して使用する場合は、雨水の浸入などにご注意ください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。 ■電源コードをドアなどに挟まないようご注意ください。

【換気】

■エンジンが作動することがあります。給排気設備のない車庫内などの換気の悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏のおそれや、排気ガスが充満したり滞留したりするおそれがありますので、使用しないでください。

【外気温が高いとき】

■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、給電機能が停止することがあります。その場合は、車両を日陰等に移動したり、エアコンを使用するなどして室内温度を下げてください。

【外気温が低いとき】

■特に外気温が低いときは、給電機能が作動できないことがあります。その場合は、車両を走行させるなどし、車両を暖めると使用できる可能性があります。

【エアコンの使用に関する警告】

■非常時給電システムの使用中は、お子様や介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用しているも、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な障害に及ぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

AC外部給電システム(ヴィークルパワーコネクター)の場合

【電源コード／配線】

■コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。 ■コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。 ■車内のアクセサリコンセントに、使用する意図のない電気製品が接続されていないことを確認してください。AC外部給電を開始したときに、車内のアクセサリコンセントにも電源供給されることにより、それらの電気製品が作動するおそれがあります。 ■ヴィークルパワーコネクターの端子部および、普通充電インレットの端子部が濡れないようにしてください。 ■ヴィークルパワーコネクターの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにしてください。 ■ヴィークルパワーコネクターと普通充電インレットは、変換アダプターや延長コードなどを使用せず、必ず直接接続してください。 ■車外コンセントに電源プラグを接続した後は、防水カバーを確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。 ■ヴィークルパワーコネクターの上に重量物を置いたり、物を引っかけたりしないでください。

【使用する電気製品】

■使用する電気製品の取扱書の注意事項に従ってください。一般の電気製品の多くは自動車内や屋外での使用は想定されていないため、次のような問題が発生する可能性があります。 ●特に外気温が低いときや高いときでは、故障や作動不良になる可能性 ●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性 ■防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。 ■車両の状態によっては、給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。 ■次のような電気製品は正しく作動しないおそれがあります。 ●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器 ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

【使用する電気製品の消費電力】

■合計消費電力は1500W以下でご使用ください。1500Wを超えると保護機能が作動し、給電機能が停止します。 ■定格消費電力合計が1500W以下であっても、起動時等に大きな電力を必要とする電気製品があります。その場合は、保護機能が作動して、給電機能が停止します。 ■定格消費電力が大きな電気製品(ホットプレートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

【使用する電気製品の作動周波数】

■工場出荷時の電源設定周波数は車両によって異なります。車両の取扱説明書を確認し、電気製品の使用可能な周波数と車両の電源周波数が異なる場合は、販売店にご相談ください。

【車両の安全確保】

■HV給電モードではエンジンが作動することがあるため、次のことをお守りください。 ●使用中は車両から離れないでください。 ●誤って手を入れないようにボンネットは閉めてください。 ●地面が固く平らな場所に駐車し、できれば輪止めを設置してください。 ●必要に応じて、ドアやヴィークルパワーコネクターを施錠してください。 ■落雷の可能性がある天候の時はAC外部給電システムを使用しないでください。使用中、雷に気づいたときには使用を停止してください。 ■一部地域では駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。

【換気】

■HV給電モードではエンジンが作動することがあります。給排気設備のない車庫内などの換気の悪い場所や囲まれた場所(雪が積もった場所)などでは、酸素欠乏のおそれや、排気ガスが充満したり滞留したりするおそれがありますので、使用しないでください。

【外気温が高いとき】

■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、給電機能が停止することがあります。その場合は、車両を日陰等に移動したり、エアコンを使用するなどして室内温度を下げてください。

【外気温が低いとき】

■特に外気温が低いときは、給電機能が作動できないことがあります。その場合は、車両を走行させるなどし、車両を暖めると使用できる可能性があります。

【エアコンの使用に関する警告】

■AC外部給電システムの使用中は、お子様や介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用しているも、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な障害に及ぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

DC外部給電システムの場合

以下はプリウスPHVの場合の注意事項となります。(MIRAIの場合は一部異なる注意事項がございます。詳しくはMIRAIの取扱書をご確認ください。)

【DC外部給電システムの使用中は】

■シフトポジションをPからほかのシフトポジションに切りかえることはできません。 ■外部給電器の出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。 ■車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。 ■スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することに対処できません。 ■ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。 ■ドアの開閉などにより、プザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません」と表示されたりすることがあります。 ■気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合は、使用する電気製品を減らしてください。 ■DC外部給電システムの作動中は、リヤシートの下側から冷却用ファンの音がすることがあります。 ■HV給電モードでは急速充電・DC外部給電に対応しておりません。そのため、急速充電器・外部給電器に異常を示す表示がされたときは、HV給電モードが選択されている可能性があります。その場合は、いったんパワースイッチをOFFにし、再度急速充電・DC外部給電の開始操作を行ってください。 ■走行中はDC外部給電システムを使用できません。 ■使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。 ■炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するためにDC外部給電システムが自動で停止することがあります。その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC外部給電を開始してください。 ■特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、DC外部給電システムを使用できないことがあります。その場合は、いったん外部給電コネクターを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。 ■DC外部給電システム使用中はエアコン・アクセサリコンセントが使用できません。 ■外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ(例えば、「車両に異常が見つかりました」、「車両故障発生」など)が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。この場合、外部給電コネクターの端子故障(接点不良)などが考えられます。外部給電器に付属の取扱説明書を確認してください。

【DC外部給電システムを使用する時の警告】

■傾いた場所や坂道などに止めて使用しないでください。 ■使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。 ■ボンネットが閉まっていることを確認してください。 ■エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)が巻き込まれるおそれがあります。 ■可燃物や危険物を車両の近くに置かないでください。 ■給電を開始する前に、接続した電気製品の電源がOFFになっていることを確認してください。 ■電源がONになっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。 ■車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。 ■お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わないでください。 ■外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続してください。 ■外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。 ■落雷の可能性がある天候のときはDC外部給電システムを使用しないでください。 ■使用中、雷に気づいたときにはDC外部給電システムを停止してください。 ■外部給電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認してください。 ■付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。 ■急速充電インレットの端子部がぬれないようにしてください。 ■外部給電コネクター・急速充電インレットの端子に金属物の鋭利なもの(ピンや針金など)を挿し込まないでください。

【DC外部給電システムがおよぼす影響について】

■植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を使用している方は、次のことを必ずお守りください。医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。 ●給電中は車内にとどまらない ●給電中は車内・外部給電器・ケーブルから十分に距離をあけ近づかない